

語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養う小学校外国語科の指導の工夫 — 言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元づくりを通して —

東広島市立西条小学校 山藤 晓子

研究の要約

本研究は、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元づくりを通して、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養う小学校外国語科の指導の工夫について考察したものである。文献研究から、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うには、相手に伝える目的をもつて、まず英語の表記法を理解し、語順の違いに気付いた上で文構造を理解して書くことが必要であり、そのためには、日本語と英語を比較させて気付きを促すとよいことが分かった。そこで、本研究では、ALTに将来の夢を書いて伝えるという目的意識を児童にもたせ、音声で十分に慣れ親しませる中で、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を繰り返し行った。その結果、児童は、英語の文構造を理解した上で語順を意識しながらALTに思いを書いて伝えることができた。このことから、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元づくりは、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うことに有効であると分かった。

キーワード：語順 書くこと 言葉カード 日本語と英語の比較

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年、以下「29年指導要領」とする。）外国語の思考力、判断力、表現力等の育成に関わる目標には、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考え方や気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。」¹⁾と示されている。

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成28年）によると、小学校外国語教育における改善・充実の中で、文構造の学習等が課題の一つとして指摘されている。所属校第6学年に行った外国語活動アンケートでは、書くことに興味があると回答した児童は74%である一方、書くことに不安があると回答した児童も62%であった。不安があると回答した児童の50%は、その要因に語順を挙げている。これらのことから、語順を意識しながら書く指導の必要性があると考える。

中森誉之（2010）は、単語を並べ替えて文を作るることは語順に注意が向くと述べている。小学校学習指導要領解説外国語編（平成29年、以下「29年解説」

とする。）では、英語の文構造を理解させるために、語の配列等の特徴を日本語との比較の中で捉えて指導を行うと示されている。これらのことから、①音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現について、単語や文等を記した言葉カードを用いて、日本語と比較させる活動を取り入れた単元づくりを行う。②具体的には、音声に慣れ親しむ活動の中で、言葉カードを用いて視覚的に日本語と比較できるようにすることで語順の違い等への気付きを促す。③自分の気持ちや考えが伝わるように、例文を参考に語順を意識しながら言葉カードを置き換える活動を行う。これら①～③のようにして日本語と比較させる活動を取り入れ、語順の違い等に気付き文構造を理解させた上で、言葉カードを置き換えて書かせることにより、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うことができると考える。

言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元づくりを行い、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養う点に小学校外国語科先行実施に向けての先進性があると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力

広辞苑第七版（2018）には、語順とは、「文の中で語の配置される順序。」²⁾と示されている。

「29年解説」では、2内容の〔思考力、判断力、表現力等〕（2）情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項において、身近で簡単な事柄について音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を語順を意識しながら書くことを身に付けることができるよう指導することが示されている。そして、「語順を意識しながら」とは、文を書く際に、どのように語を並べると自分の伝えたいことが適切に伝わるかを考えることが重要であることを示していると記されている。また「書くこと」の目標について、例文を参考に、英語で書かれた文又はまとまりのある文章を参考にして、その中の一文あるいは一部の語を自分が表現したい内容のものに置き換えて文章を書くことができるようになると示されている。

つまり、語順とは文の中で語の配置される順序であり、語順を意識しながら書くとは、例文を参考に、どのように語を並べると自分の伝えたいことが適切に伝わるかを考えて、一部の語を自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことと考える。

さらに、前頁Ⅰの外国語の目標には、自分の気持ちや考えなどを伝え合う基礎的な力を養うと示されており、「29年解説」には、「自分の気持ちや考えなどを伝え合う」ことにおいて、聞いたり話したり、推測しながら読んだり語順を意識しながら書いたりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の気持ちや考えなどを伝え合うことの大切さが示されている。

これらのことから、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力とは、相手に伝える目的をもって、例文を参考に、どのように語を並べると自分の伝えたいことが適切に伝わるかを考えて、一部の語を自分が表現したい内容のものに置き換えて自分の気持ちや考えを書いて伝える力とする。

2 語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うためには

（1）語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うための学習段階

「29年解説」では、「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、「知識及び技能」で解説する言語材料を活用し、言語の使用場面に応じて具体的

な言語の働きを取り上げ、言語活動を行う必要が示されている。そして、「29年指導要領」には、2内容〔知識及び技能〕における（1）英語の特徴やきまりに関する事項として、文字及び符号、文及び文構造等の言語材料を扱うことが示されている。

さらに、岡田圭子・嶋林昭治（2015）は、英語の表記法について、日本語とは全く異なる点がいくつもあり、英文を正しく書くには、まず英語の表記方法を知る必要があり、次に英語の語順に従って単語を並べ、最後に必要な変化系を使って英文を書くことになると述べている。そして、初期段階に確実に身に付ける必要がある表記法について図1②のように内容を示している。

また、「29年解説」には、文及び文構造については、文法の用語や用法の指導を行うのではなく日本語と英語の語順の違い等の気付きを促すことが求められている。そして、繰り返し触れることで英語の語順に気付かせ、その規則性を内在化させている。つまり語順の違い等の気付きに繰り返し触れることで、規則性への気付きが促され、文構造への理解が深まると捉える。

これらのことから、語順を意識しながら書いて伝えるには、まず初期段階に身に付ける必要がある表記法を理解し、相手に伝える目的をもって、語順の違いに気付いた上で文構造を理解して書くことが必要であると考える。

そこで、本研究では、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うための学習段階を図1のように考える。

学習段階	内容	知識及び技能
①表記法の違いに気付く	・英語と日本語では、表記法が違うことに気付く。	
②英語の表記法を理解する	・単語と単語の間にはスペースがある。 ・文末には、終止符（.）を打つ。 ・文頭の単語の最初の文字は大文字である。	
③語順の違いに気付く	・英語と日本語では、文の中で語の配置される順序が違うことに気付く。	
④英語の文構造を理解する	・英語の語順の規則性を内在化させ理解する。	
⑤語順を意識しながら書く	・文構造を理解して書く。 ・例文を参考に、どのように語を並べると自分の伝えたいことが適切に伝わるかを考えて、一部の語を自分が表現したい内容のものに置き換えて書く。	思考力、判断力、表現力等

図1 語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うための学習段階⁽¹⁾

(2) 文構造を理解させた上で書かせるためには

「29年解説」には、「書くこと」の目標の中で、「語順を意識しながら」としたのは、英語では意味の伝達において語順が重要な役割を担っているからであり、児童に英語の文構造を理解させるために、語の配列等の特徴を日本語との比較の中で捉えて指導を行うことも有効であると示されている。さらに、3指導計画の作成と内容の取扱い（1）指導計画作成上の配慮事項において、国語科において、主語と述語の関係について学習したことを踏まえて、日本語と比較する中で、英語の語順に気付かせることも考えられると示されている。

これらのことから、文構造を理解させるためには、日本語と英語を比較させ、語順の違いへの気付きを促すことが必要であると考える。

また、田縁眞弓（2013）は、イラストと綴りからなる絵カードを用いることは、語順への気付きを促す活動の工夫が可能であり、例として、主語、動詞、目的語となる絵カードをバラバラに提示し、英語の文を聞かせてカードを正しい順に並び替えさせる活動を挙げている。つまり、一部の語を置き換えるためには、単語等毎にカードに示すことが有効であると考える。

そこで、本研究では、主語、動詞、目的語を色分けしたカードを言葉カードとして取り入れる。ただし、英語のカードについてはイラストを添え、単語毎に区切るものだけではなく文で表したものも用いることとする。言葉カード例を図2に示す。

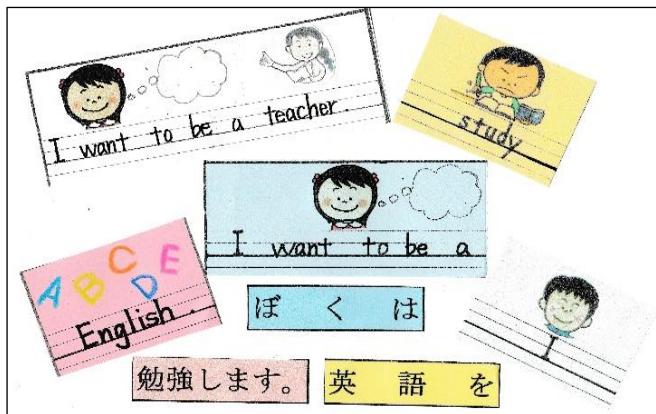


図2 言葉カード例

以上のことから、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うためには、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れ、相手に伝える目的をもって、文構造を理解させ、自分の気持ちや考えを書くことが必要であると考える。

3 言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元づくり

「29年指導要領」には、3指導計画の作成と内容の取扱い（1）指導計画作成上の配慮事項において、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすることが示されている。また、「29年解説」には、具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて自分の考えを表現することを通して、語順を意識しながら書くことを身に付けることができるよう指導すると示されている。

これらのことは、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」の行動計画に示されている「課題発見・解決学習」の考え方と同義と捉える。

そこで、本研究では、ALTに夢カードを書いて伝えるという課題を設定し、児童が、相手に伝えるという目的意識をもって学習に取り組み、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を身に付けさせることができるようにする。

〔課題の設定〕では、帰国するALTに宛てて夢カードに将来の夢を書いて伝えようというゴールの活動を設定し、夢カードを作成して伝えるためには、どのような学習活動が必要かを児童に話し合わせ、単元の活動の見通しをもたせる。〔情報の収集〕では、就きたい職業やその理由について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しませる。その中で、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させて語順の違いへの気付きを促す活動を繰り返し行う。〔整理・分析〕では、語順の違いへの気付きを基に、文構造を理解させる。そして、〔まとめ・表現、実行〕では、就きたい職業や理由を表す例文を参考に、どのように語を並べると自分の伝えたいことが適切に伝わるかを考えて、一部の語を自分が表現したい内容の言葉カードに置き換える。さらに、それを見ながら将来の夢や理由を夢カードに書かせる。〔振り返り〕では、ALTからの手紙を読み、自分の将来の夢や理由を伝えることができたことを実感させ、単元の学習を振り返らせる。

このようにして、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元づくりを行うことで、相手に伝える目的をもって、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うことができると考える。

本研究の構想図を次頁図3に示す。

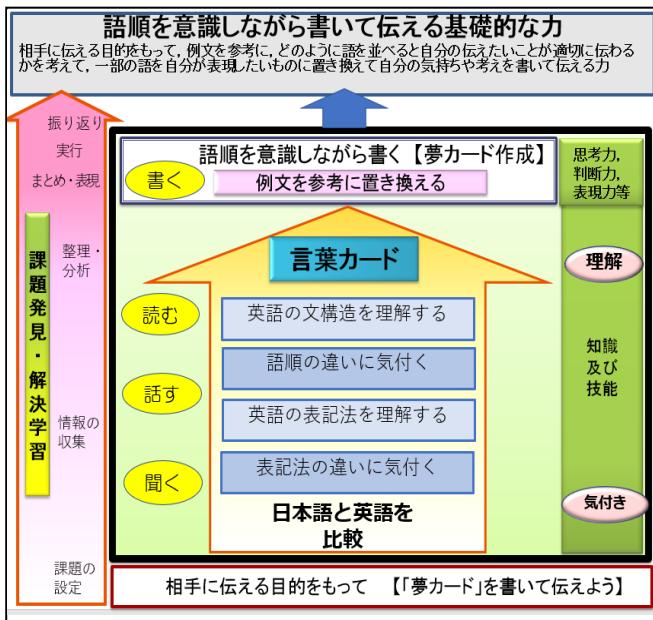


図3 研究構想図

III 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元づくりを行えば、児童に相手に伝える目的をもたせ、語順の違い等への気付きを促して文構造を理解させることができ、語順を意識して書いて伝える基礎的な力を養うことができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表1に示す。

表1 検証の視点と方法

検証の視点	検証の方法
①相手に伝える目的をもつことができたか。	・行動観察 ・振り返りシート
②言葉カードを用いて日本語と英語を比較することにより、語順の違い等に気付き、文構造を理解することができたか。	・行動観察 ・振り返りシート ・ワークシート
③相手に伝える目的をもって、文構造を理解した上で例文を参考に言葉を置き換えて自分の気持ちや考えを書いて伝えることができたか。	・行動観察 ・夢カード ・振り返りシート ・ALTからの手紙

IV 研究授業について

「29年指導要領」は、平成32年度から全面実施となるため、現在の教育課程の外国語活動に外国語科の指導の工夫を発展的な内容として位置付けて授業を行う。

- 期間 平成29年12月7日～平成30年1月11日
- 対象 所属校第6学年（1学級37人）
- 単元名 “Hi, friends ! 2”Lesson 8
—「夢カード」に将来の夢を書いて伝えよう—
- 目標 (◇: 発展的に扱う内容に関する目標)
 - ・積極的に自分の将来の夢について交流しようとする。
 - ・就きたい職業やその理由を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ◇語順を意識しながら将来の夢や理由を読んだり書いたりすることに慣れ親しむ。
- ・職業を表す語について英語と日本語の共通点に気付く。
- ◇日本語と英語を比較して、語順の違い等に気付く。

○ 単元計画

時	目標(○)	主な活動 (◇言葉カードの使用) (A～H: 言葉カードを用いて語順の違い等への気付きを促す活動)
	〔課題の設定〕	
1	「夢カード」に将来の夢を書いてクリスティン先生に伝えよう ○様々な職業の言い方を知る。 ○職業を表す語について英語と日本語の共通点や違いに気付く。	A・ゴールの活動の話合い ◇・職業当てクイズ【聞・読】 ◇・キーワードゲーム【聞・話】 ◇・タッチカードゲーム【聞・読】
2	〔情報の収集〕 ○就きたい職業について、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ○日本語と英語を比較して英語の表記方法・語順の違いに気付く。	A・絵本の読み聞かせ【聞・話】 A・チャンツ【聞・話】 ◇・仲間探しゲーム【聞・話】 B・Read and Write 自分が就きたい職業を書く【読・書】
3	○就きたい職業や理由について、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ○日本語と英語を比較して語順の違いに気付く。	C・チャンツ【聞・話】 ◇・カードゲーム【聞・話】 D・Read and Write 自分が就きたい職業の理由を書く①【読・書】
4	〔整理・分析〕 ○自分のことをもっと知ってもらうという目的をもって、自分の将来の夢を伝えようとする。 ○日本語と英語を比較して文構造の違いに気付く。	E・チャンツ【聞・話】 E・「夢宣言」【聞・話】 F・Read and Write 自分が就きたい職業の理由を書く②【読・書】
5	〔まとめ・表現、実行〕 ○相手に伝える目的をもって、将来の夢を書いて伝えようとする。 ○語順を意識しながら自分の将来の夢や理由を書く。	G・チャンツ【聞・話】 H・Read and Write 「夢カードづくり」【読・書】
6	〔振り返り〕 ○ALTからの手紙を読み、自分の気持ちを伝えることができていたかを知る。 ○単元の学習を振り返る。	I・クリスティン先生からの手紙【聞・読】 I・手紙を読んだ感想の話合い I・振り返りカードの記入

本研究における語順の違い等への気付きを促す活動 (A～H) の詳細について次頁図4に示す。

時	学習段階	言葉カードを用いた日本語と英語の比較のさせ方 (T) 教師 (S) 児童	比較させることにより気付かせたいこと
2	気表付記い法での理違解いする		<p>文における基本的な区切り、単語と単語の間にはスペースが入る。</p> <p>文末には、終止符がある。</p> <p>文頭の単語の最初の文字は大文字「I」がある。</p>
	語順の違いに気付く		<p>自分がなりたい職業を表すためには、[teacher.]のカードを自分のなりたい職業を表す言葉に置き換えるべき。</p>
3	語順の違いに気付く		<p>言葉カードの2番目と3番目の語の順番が日本語とは違う。</p> <p>英語では、～が最後にある。英語では、日本語の述語が先にきている。</p> <p>語順が違う。</p>
4	語順の違いに気付く		<p>I study English.の文もI like children.の時と同じように語順が違う。</p>
	文構造を理解する		<p>英語は、「～です。」「～する。」というように先に言い切るきまりがありそう。</p> <p>英語の文は、日本語の文と文構造が違う。</p>
5	語順を意識しながら書く		<p>英語の文構造にはきまりがある。</p>

図4 言葉カードを用いて語順の違い等への気付きを促す活動

V 研究授業の分析と考察

本研究は、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元を通して、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うことができたかについて、次の3点の分析・考察を行う。

1 相手に伝える目的をもつことができたか

第1時の課題設定では、ALTが帰国することになったという事実を児童に伝え、将来の夢を伝える

ためにはどのようにしたらよいかを話し合わせた。すると、児童から直接伝えることができないから手紙やカードに書いて伝えたらよいのではないかという意見が出され、「『夢カード』に将来の夢を書いてクリスティン先生に伝えよう」という学習課題を児童とともに設定することができた。

次に、教師が作った将来の夢と理由が書かれた夢カードを提示し、夢カードを作成するには、どのような学習が必要かを話し合わせた。すると、児童か

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

ら次のような意見が出された。

- ・夢カードを書くためには、将来の夢やその理由を表す言い方や書き方を知らないといけない。
- ・手紙に書くのだから、絶対に自分の夢と理由を間違えて書かないように文の書き方を学習したい。
- ・手紙は残るから間違えずに文を正しく書きたい。
- ・日本語と違って文の並び方が違うから英語のルールを知りたい。

さらに、これらの児童の意見を基にして、ALTに書いて伝えるという目標を明確にして、児童とともに学習計画を立てた。そして、ALTから夢カードを読むのを楽しみにしているという励ましの言葉をもらうことで、児童は自分の将来の夢と理由が伝わるように書こうという目的をもつことができた。第1時の振り返りでは、全員が相手に伝える目的をもったことが分かる記述をしていた。その中の一部を次に示す。

- ・自分の将来の夢やその理由をしっかりと伝えることができるよう単語を書くことができるようがんばりたい。
- ・クリスティン先生に自分の気持ちが正しく伝わるように夢カードに書きたい。
- ・英語のきまりをしっかりと勉強して夢カードに書いて伝えたい。
- ・夢カードを作るまでの勉強をしっかりと相手に伝わる書き方をしたい。
- ・文の順番を間違わないように書いてクリスティン先生に伝えたい。

以上のことから、児童はALTに宛てて夢カードに将来の夢を書いて伝えるという目的をもつことができたと考える。

2 言葉カードを用いて日本語と英語を比較させることにより、語順の違い等に気付き、文構造を理解させることができたか

第2時では36人が表記法と語順の違いについて、第3時では全員が語順の違いについて気付くことができた。さらに、第4時では全員が文構造を理解することができた。中には、語順への気付きが促され、第3時の段階から文構造の理解をしていることが分かる記述をしている児童もいた。表2に日本語と英語の違いへの気付きに関する主な児童の記述を示す。

表2 日本語と英語の違いへの気付きに関する主な児童の記述（◇文構造の理解に関する記述）

第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の文には、言葉と言葉の間に間隔がある。 ・英語の文の初めは、大文字になっている。 ・日本語で文章を書くときには、最後に「。」を付けるけど、英語の時には、最後に「.」を付ける。 ・I want to be ~.の~を変えたら自分の就きたい職業が言える。 ・日本語の文は、「~になりたいです。」で、~に~が先にあるけど、英語は、I want to be ~.となって~に~が最後にきている。 ・日本語と英語のルールの違いがありそうだ。
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・英語と日本語では、語順が違った。 ・英語には、決まった順番があるのかもしれない。 <p>◇日本語は、主語・修飾語・述語の順番だが、英語は、主語・述語・修飾語になっている。</p>
第4時	<p>◇I like ~.の時と同じで、I study ~.でも語順が違っていた。それは、たまたまではなく英語には文のきまりがあるということが分かった。</p> <p>◇英語と日本語では、文の構成が違うことが分かった。</p> <p>◇英語は、日本語より文のきまりがしっかりとしている。</p>

第3時における語順の違いへの気付きを促す活動では、児童から、「好きなものを表す言葉カードが、日本語では真ん中になるのに、英語では最後にきている。」「本とbooksは、同じ意味を表す言葉なのに、カードの位置が違う。」等の発言があった。また、ワークシート上で言葉カードを置き換えることで、語順の違いに気付き、矢印を書き込んで表現する児童もいた。図5に児童のワークシートを示す。

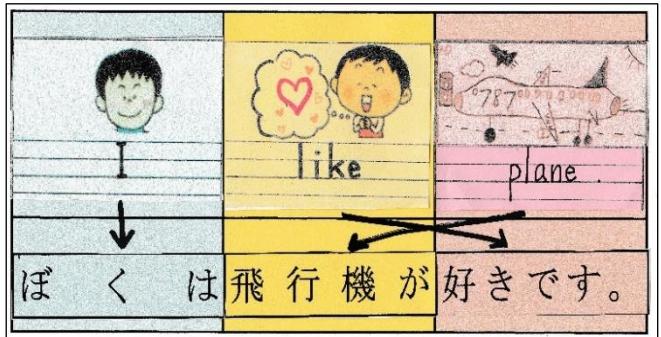


図5 語順の違いへの気付きを表したワークシート

さらに、A児は、第2時では、日本語と英語の表記法や語順の違いに気付くことができなかった。しかし、語順への気付きを促す活動を板書や言葉カードの操作により視覚的に示すことにより、第3時、第4時へと学習が進むにつれ、日本語と英語の違いへの気付きが促された。A児の振り返りシートへの記述を次頁表3に示す。

表3 A児の振り返りシートの記述

第2時	記入なし
第3時	英語と日本語では並び方が違う。
第4時	日本語の文と英語の文では、それぞれ順番が違つてしまことがある。

第5時の振り返りには、「語順が違う理由を調べてみたい。」と記述しており、英語の文構造を理解し、興味を抱くことができた。

これらのことから、英語と日本語の違いへの気付きを促す活動を繰り返し行うことにより、表記法や語順の違いに気付き、単元の終末になるにつれ、文構造について理解していることが分かる。

以上のことから、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させ語順の違いへの気付きを促す活動を繰り返し行なうことは、文構造を理解させることに有効であったと考える。

3 相手に伝える目的をもって、文構造を理解した上で例文を参考に言葉を置き換えて自分の気持ちや考えを書いて伝えることができたか

(1) 行動観察、夢カード、振り返りシート

第5時には、ALTの写真や指導者が作成した夢カードを提示して、自分の気持ちや考えが伝わるよう書くことを意識させた。指導者が例文を示す際に、意図的に言葉カードの順序を間違えて提示すると、児童が語順の間違いに気付いて、カードを正しく並べ換えることができ、文構造を理解していることが分かった。

次に、就きたい職業や理由を表す三つの例文を参考に、どのように語を並べると自分の伝えたいことが伝わるかを考えて、一部の語を自分が表現したい内容の言葉カードに置き換える活動を行わせた。前時までにその表現について、児童は音声で十分に慣れ親しんだり文構造を理解したりすることができていた。そのため、全員が例文を参考に一部の言葉カードを置き換えるのではなく、自分の気持ちや考えを表すことができるように、言葉カードを並べ換えて文を作ることができた。途中、1名の児童は、日本語の語順でカードを並べていたが、音声で慣れ親しんだ語順と違うことに気付き、自分の考えが伝わるように言葉カードを並べ換えることができた。児童が並べた言葉カードを図6に示す。

さらに、児童は、その言葉カードを見て将来の夢とその理由を書いた。全員の完成した夢カードには、将来の夢と理由が正しく書かれており、表記法（終

止符、スペース、文頭は大文字）や文構造を理解した上で、ALTを意識して書いたことが分かる。児童が作成した夢カードを図7に示す。

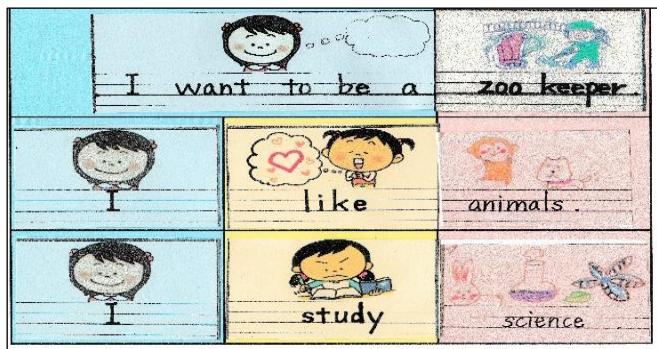


図6 児童が並べた言葉カード



図7 児童が作成した夢カード

また、振り返りにおいて、夢カードを書くときに気を付けたことに関する児童の記述を見ていくと、ALTに自分の気持ちや考えを正しく伝えようと、文構造を理解した上で言葉を置き換えて自分の気持ちや考えを書いたことが分かる記述が見られた。その中の一部を以下に示す。

- ・語順に気を付けて、言葉カードで文を組み立てて自分の夢が伝わるように書いた。
- ・言葉の並び等の日本語と英語の違いを意識しながら書いた。
- ・日本語と英語では、述語と修飾語の位置が変わっていることに気を付けながら、将来の夢とその理由が必ず伝わるように考えながらゆっくり書いた。
- ・クリスティン先生に自分の夢が必ず伝わるように、英語の語順に気を付けて確かめながら書いた。
- ・手紙だから間違って伝わらないように、文構造に気を付けて書いた。

これらのことから、児童は、ALTに伝える目的をもって文構造を理解した上で言葉を置き換えて自分の気持ちや考えを書くことができたと考える。

(2) ALTからの手紙、振り返りシート

ALTは、児童が作成した夢カードに書かれた文を読み、全員の将来の夢と理由が分かったと述べていた。第6時では、ALTと連携し、児童一人一人に児童の夢を入れた次のような返事を書いて児童に渡し、自分の気持ちを伝えることができたことを実感することができる活動を設定した。

Thank you for your dream card.
You want to be a doctor.
You can do it.

返事をもらった児童は、既習の表現を想起し、文を推測しながら読んでいた。夢カードに、I want to be a doctor.と書いた児童は、You want to be a doctor.と書かれた返事を見て、自分の思いが伝わったととても喜んで読んでいた。そして、振り返りでは、ALTからの返事を読み、相手を意識しながら書いたことにより思いが伝わったと感じることができたと全員が回答した。児童の主な感想を次に示す。

- ・クリスティン先生からのカードを読んで、夢が伝わったんだなと感じて、がんばって書いてよかったです。夢を応援してくれていて嬉しい。
- ・夢が伝わるように語順を意識して書いて工夫したから伝わったと思う。英語のきまりが身に付いたと思う。
- ・クリスティン先生に伝わったので、達成感があった。英語を書くときのきまりが身に付いたと思う。
- ・クリスティン先生が返事をくださったので、書いたことが伝わったと思えたし、文を書いて届けることに感動した。
- ・日本語では伝わらなかつたはずのことが、英語を使って書くことで思いが伝わり、相手の思いもキャッチできたので、他の言語や文字を知ることは、人との輪が広がることに興味をもつた。
- ・語順を意識して書いたら、相手に正しく伝わったことが分かった。これからも語順や習ったことを守って文を書いてみたい。

これらのことから、単元の中で具体的な課題を設定することで、児童はALTに伝える目的をもって、語順を意識して自分の気持ちや考えを書いて伝えることができた。さらに、児童は、自分の気持ちや考えを書いて伝える喜びを実感することができたと考える。

以上のことから、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元づくりは、児童が語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を

養うために有効であったと考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

ALTに夢カードを書いて伝えるという目的意識をもたせ、言葉カードを用いて日本語と英語を比較させる活動を取り入れた単元づくりを行えば、児童は、相手に伝える目的をもち、語順の違い等に気付いて文構造を理解することができ、語順を意識しながら書いて伝える基礎的な力を養うことができるところが分かった。

2 研究の課題

- 言語材料によっては、語順への気付きを促す学習において、単語に区切ってカードに表し、日本語と比較させるものが難しいものもあった。言語材料を吟味して段階的に指導する必要がある。
- 本研究では、言葉カードを用いて英語の表記法、語順・文構造の違いを理解させることを一単元に全て入れて指導した。今後は、スマーレステップで系統的に指導していくことで、語順を意識して書いて伝える基礎的な力を養うことができるように、第5・6学年の2年間を通して、相手に伝える必然性のある書く活動を年間計画に位置付けて繰り返し学習していく必要がある。
- 小学校の外国語科における文構造の指導と中学校における文法事項の指導を小中で共有し、より充実した指導に繋げていく必要がある。

【注】

- (1) 岡田圭子／嶋林昭治(2015)：「第10章 ライティング指導」『基礎から学ぶ英語科教育法』研究社p. 174, 文部科学省(平成29年)『小学校学習指導要領解説外国語編』p. 32を基に稿者が作成した。

【引用文献】

- 1) 文部科学省(平成29年)：『小学校学習指導要領』p. 137
2) 新村出(2018)：『広辞苑第七版』岩波書店p. 1058

【参考文献】

- 文部科学省(平成29年)：『小学校学習指導要領』
文部科学省(平成29年)：『小学校学習指導要領解説外国語編』
中央教育審議会(平成28年)：『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』
中森誉之(2010)：『学びのための英語指導理論』ひつじ書房
田縁眞弓(2013)：『第10章 教材・教具の活用法』『小学校英語教育法入門』研究社
広島県教育委員会(平成29年)：『平成29年度 広島県教育資料』